

# 日本環境教育学会 第25回大会(東京)

## テーマ:ESDの10年と環境教育の未来

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
8月1日 (金)											論文の書き方セミナー (若手学会員の集い)		
8月2日 (土)	受付	口頭発表			口頭発表			大会企画		総会	懇親会 (～21時)		
		ポスター発表											
8月3日 (日)	受付	口頭発表			プロジェクト研究			自主課題研究					
		ポスター発表											
		口頭発表 英語報告部会)			国際交流フォーラム								

- 期間：2014年8月1日(金)～8月3日(日)
- 会場：法政大学市ヶ谷キャンパス (55・58年館3/6/7階、ボアソナード・タワー26階)  
〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
- 主催：日本環境教育学会(第25回大会実行委員会)
- 後援：環境省・経済産業省・国土交通省・農林水産省・文部科学省(予定)
- 協賛：法政大学
  
- 日本環境教育学会第25回大会実行委員会事務局  
〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨3-20-1 大正大学人間環境学科気付(高橋正弘)  
FAX 03-5394-3037 E-mail <tokyo2014@jsoee.jp>
  
- 日本環境教育学会事務局(平日10時～17時)  
〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協学会支援センター内  
電話 03-5307-1175 FAX 03-5307-1196 E-mail <jsee@univcoop.or.jp>

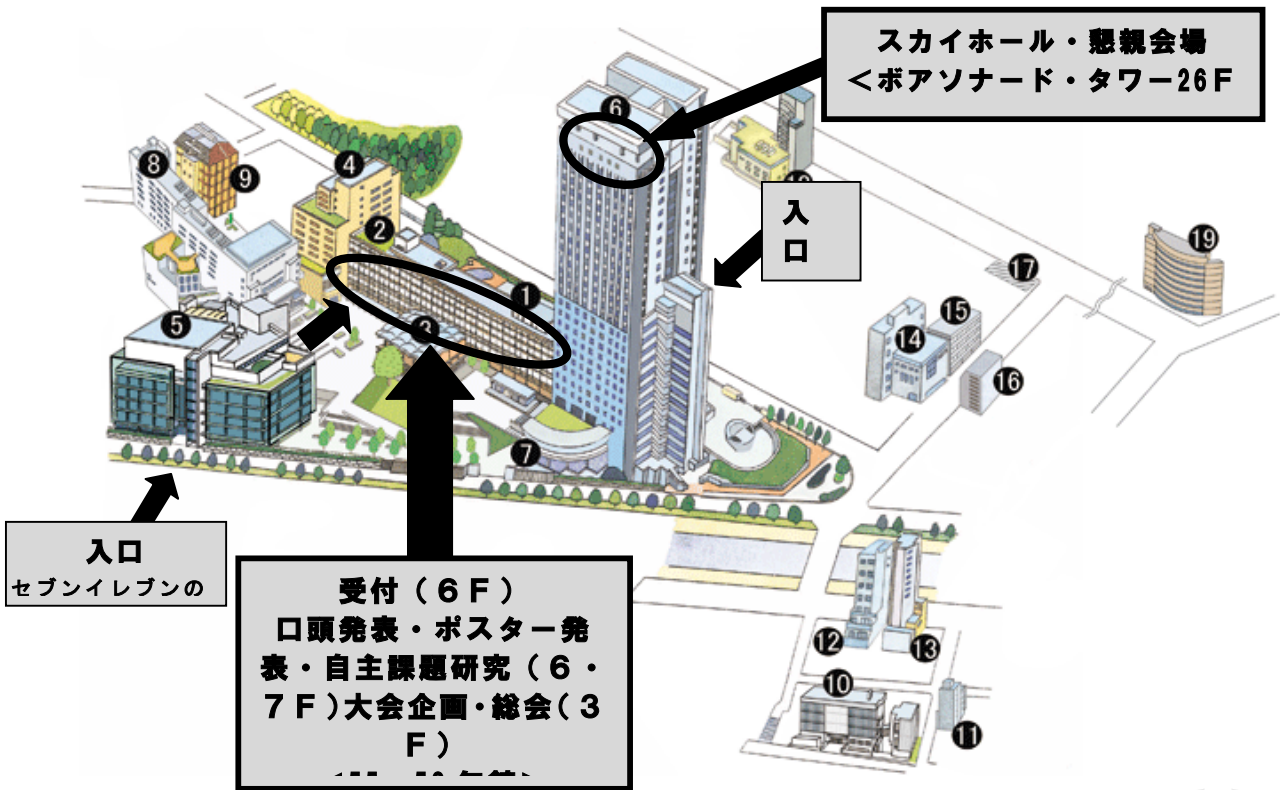
### <法政大学市ヶ谷キャンパスへのアクセス>

- 【JR線】 総武線：市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
- 【地下鉄線】 都営新宿線：市ヶ谷駅下車徒歩10分
- 【地下鉄線】 東京メトロ有楽町線：市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
- 【地下鉄線】 東京メトロ東西線：飯田橋駅下車徒歩10分
- 【地下鉄線】 東京メトロ南北線：市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
- 【地下鉄線】 都営大江戸線：飯田橋駅下車徒歩10分

<法政大学へのアクセスマップ>



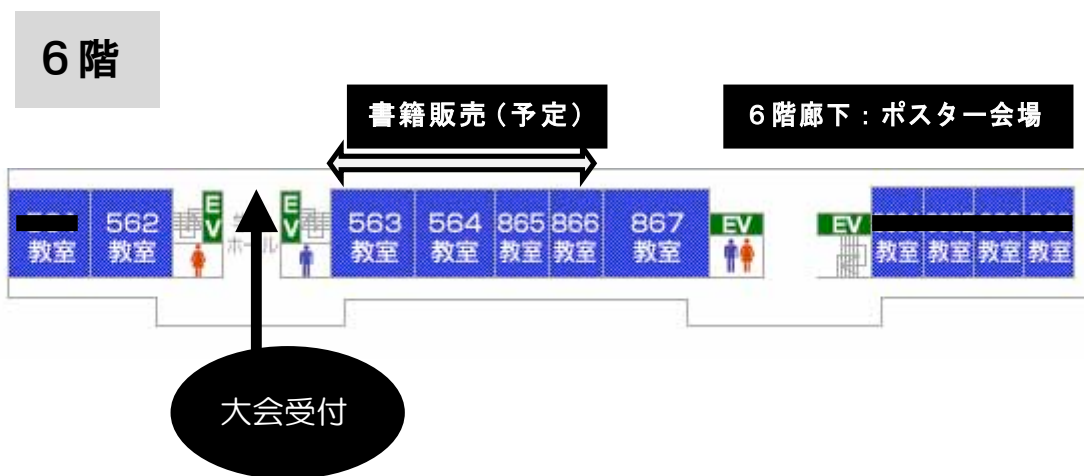
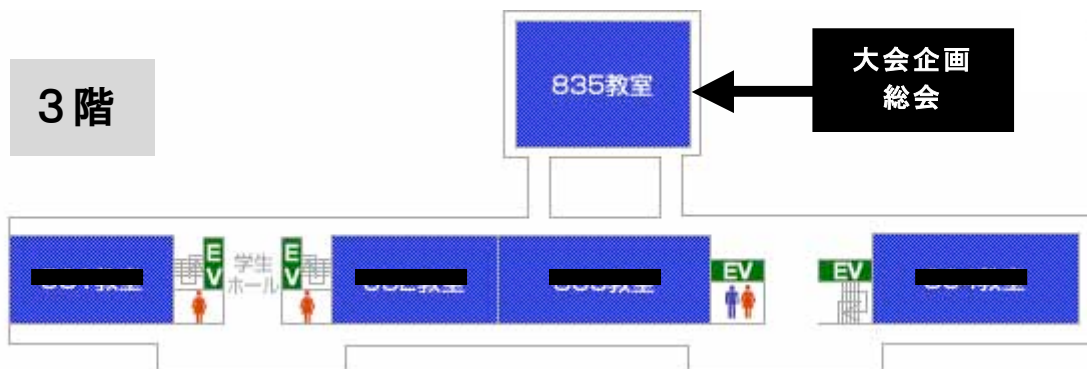
<法政大学市ヶ谷キャンパスマップ>



<会場のご案内（教室配置）>

**55・58年館**

※55・58年館は、同じ建物・フロアーになります。



<会場のご案内（教室）>

棟	階	教室	8月1日PM	8月2日AM	8月2日PM	8月3日AM	8月3日PM		
55・58年館	3	835			大会企画				
					総会				
	6	エントランス		大会受付					
		廊下		ポスター発表					
		562		口頭発表A		口頭発表A	プロジェクト研究Ⅲ	自主課題研究1	
		563		口頭発表B		口頭発表B	プロジェクト研究Ⅳ	自主課題研究2	
		564		口頭発表C		口頭発表C	プロジェクト研究Ⅴ	自主課題研究3	
		865		参加者休憩室					
		866		参加者休憩室					
		867	論文の書き方セミナー	口頭発表D		口頭発表D	プロジェクト研究Ⅵ	自主課題研究4	
		7	571		口頭発表G		英語報告部会 (G会場)	国際交流フォーラム	
			572				英語報告部会 (H会場)		
	573			口頭発表E		口頭発表E		自主課題研究5	
	574			口頭発表F		口頭発表F		自主課題研究6	
	875			海外参加者休憩室					
	876			海外参加者休憩室					
	877			予備室					
	ホアソナドタワー	26	スカイホール			懇親会			

## ＜参加者の皆様へ＞

### 1. 大会全般について

- 大会期間中、大会受付は、55・58年館6階の西側エントランス（エレベーター付近）に設置いたします。参加者は必ずここで受付をしてください。
- 会場内では、大会受付でお渡しする参加票（名札）を必ず首から提げるようにしてください。（一般入場者の方と名札によって判別いたします。）
- 大会開催期間中は、会場以外の建物および教室に出入りすることはできません。
- 喫煙は、指定の喫煙場所にてお願いします。55・58年館には、各階スロープ（室外）に喫煙スペースが設置されています。

### 2. お食事について

- 休憩や持ち込まれた食事の場所といたしまして、55・58年館6階865教室と866教室が利用できます。昼食につきましては、お弁当等をあらかじめご持参いただくか、大学周辺の食堂もしくは近隣コンビニエンスストア・お弁当屋等をご利用ください。

### 3. 会場について

- 工事中のため、通常の通用口が利用できません。2ページのキャンパスマップを参考に、55・58年館までお越しください。（セブン・イレブン隣の外濠校舎の入り口から入り、目の前の階段を一階分上がり、建物を突き抜けた先の正面にあるのが、55・58年館です）
- 自家用車でのご来場はできません。公共交通機関をご利用ください。
- 会員の休憩室を、55・58年館6階865教室と866教室に設置します。クロークはございませんので、こちらを荷物置場としてご自由にご利用ください。ただし貴重品等は各自が保管し、絶対に休憩室内に置かないようにしてください。

### 4. 託児について

- 本大会では、託児サービスを実施することができません。以下のような一時預かりをしている民間託児サービス等のご利用をご検討ください。

アスク飯田橋保育園 03-3260-5697

保育室シェ・マミー 03-6383-4227（3歳まで）

### 5. その他

- 事前のお申し出がなかったため、本大会期間中に、手話通訳者を設置しないことになりました。なお、必要に応じてご自身で筆談ボランティアを依頼された方は、その旨大会事務局まで、事前にお知らせください。
- ATMは、ボアソナード・タワー1階に三菱東京UFJ銀行（平日8:00～22:00／土曜9:00～17:00／日・祝 取扱いなし）、外濠校舎1階に日本郵政（平日9:00～19:00／土曜9:00～17:00／日・祝 取扱いなし）、その他キャンパス内に、セブン・イレブンと、ボアソナード・タワーの向かいにローソンがあります。

## 口頭発表の要領について

日時：8月2日（土） 9：00～12：00、13：30～15：30 / 8月3日（日） 9：00～12：00

会場（教室）：55・58年館6階562～867教室および7階571～877教室

### 1. 発表時間

1件15分（発表12分、質疑3分）で進行いたします。なお、総合討論後の5分間休憩では、座長交代やコンピュータへのパワーポイントデータ取り込み等、円滑な運営にご協力ください。発表中の合図は次の通りです。

第1鈴：10分

第2鈴：12分（発表時間終了です。直ちに発表を終了してください）

第3鈴：15分（質疑終了です。直ちに次の発表者と交代してください）

- 発表者は、一つ前の発表になりましたら会場の前の方の席に待機しててください。
- 発表者は、はじめに表題と発表者名をご紹介ください。
- 質問者は、はじめに氏名と所属を述べてください。
- 発表者は、それぞれのセッションの総合討論が終了するまで、会場に待機してください。
- 総合討論では、質問や討論が特定の発表者の発表内容に偏らないよう配慮してください。

### 2. 発表機材について

- 各教室に設置済みのPCを使用してください。PowerPoint（バージョン2010まで対応、Windows PC設置済み）が使用できます。
- PCの操作は発表者の責任で行ってください。なお、持ちこみPCを利用した発表はできません。
- PowerPointのデータは、USBメモリやCD-Rなどで当日ご持参ください。発表直前のデータ操作はトラブルの原因になりますので、ご自身の発表があるセッションの開始前（口頭発表開始時刻前、もしくは前のセッションの総合討論の時間中）に、必ず会場備え付けのPCのデスクトップ上にある各セッションのフォルダにコピーしておいてください。

### ※重要 ウィルスチェックについて

USBメモリを媒介にしたウィルスの被害防止のため、会場に設置してあるPCには大変厳しいウィルスチェックソフトがインストールされています。もし持参したUSBメモリもしくはCD-Rに、何らかのウィルスが入っている場合、会場のPCにファイルを移動することはできません。その場合、研究発表要旨のみで発表いただくことになります。必ず事前に、各自で最新バージョンのウィルス対策ソフトで、持込みをするUSBメモリもしくはCD-Rをチェックし、安全を確認してからご持参ください。USBメモリ内には、発表用のファイル以外のものは入れないようご注意ください。なお、PCにファイルを移動するタイミングは、セッション開始前もしくは総合討論と次のセッションの間の時間となりますので、協力して急ぎ行ってください。

### ※座長のみなさまへ

座長（司会者）はセッション全体を担当していただきます。複数の関連発表とその後の総合討論まで、責任を持って進行をお願いします。討論が特定の発表者・発言者に偏らないよう、配慮してください。

### ※英語報告部会について

第25回大会では、8月2日に、口頭発表・発表要旨・質疑応答・総合討論のすべてを英語によって進行する「英語報告部会」を設定します。海外からの参加者だけでなく、会員の皆様にも積極的に英語報告部会にご参加いただき、盛り上げていただければ幸いです。

## ポスター発表の要領について

日時：8月2日（土）9：00～14：45 / 8月3日（日）9：00～15：00  
（8月2日の12：00～12：45、8月3日の12：00～13：00はコアタイム）  
場所：55・58年館6階廊下

- ポスターの展示スペースは、1件につきA1サイズ（縦：841mm×横：591mm）です。
- 発表者は、2日（土）9：00までに所定の位置に各自掲示し、3（日）15：00までに取り外して撤収を完了して下さい。
- この日程で対応いただけない場合は、あらかじめ大会事務局までご相談ください。
- 発表者は質疑応答のため、2日か3日のどちらか1日のコアタイムには、ポスターの前で待機してください。両日ともご対応いただけると、より活発な情報交換がなされますので、善処ください。コアタイム以外は自由閲覧としますので、発表者がその場にいる必要はありません。
- 画びょうは、大会実行委員会で準備いたしますので、必ず指定のものをご使用ください。ご自身で用意されたテープなどは使わないようにしてください。
- 撤収時間を過ぎて掲示されているポスターは、実行委員会で処分いたします。保管はいたしませんので、ご了承ください。

## 自主課題研究

日時：8月3日（日）15：30～17：30  
場所：55・58年館6階561～867教室および7階573教室

1. **環境教育学を拓く**（562教室）
  - 原子栄一郎（東京学芸大学）、安藤聡彦（埼玉大学）、井上有一（京都精華大学）、今村光章（岐阜大学）
2. **2R（リデュース、リユース）環境教育の実践、楽しく、わかりやすく伝える2Rの模擬授業**（563教室）
  - 西村優子、永田秀和、中村秀次（びんリユース推進全国協議会）
3. **<当事者>の語りから、大学におけるPBL(Problem Based Learning or Project Based Learning)とESD(Education for Sustainable Development)について考える**（564教室）
  - 村松陸雄（武蔵野大学環境学部）、石井雅章（神田外語大学メディア教育センター）、村山史世（麻布大学生命・環境科学部）
4. **質的研究法を学ぶ・1**（867教室）
  - 野田恵（東京農工大学）、秦範子（東京農工大学大学院）
5. **観光の教育力と環境教育**（573教室）
  - 大島順子（琉球大学観光産業科学部）、寺本潔（玉川大学教育学部）
6. **国公立大学における環境教育のフロンティア6—法人化10年目の大学教育改革とガバナンス—**（574教室）
  - 内山弘美（大学非常勤講師）、多羅尾光徳（東京農工大学）、他

※自主課題研究の会場設営および進行等の運営はすべて企画者側で行い、終了後は会場を元の状態に戻してください。終了時間は厳守でお願いします。

## <大会参加者向けイベント>

【総会】8月2日(土) 17:30~18:30/55・58年館 835 教室 (会員に限ります)

【懇親会】8月2日(土) (受付 18:30~) 19:00~21:00/ボアソナード・タワー26F スカイホール

※会員諸氏からのお酒等の差し入れを大歓迎いたします。会場まで直接ご持参ください。

【プロジェクト研究】8月3日(日) 13:00~15:00

プロジェクト研究 III 「地域づくりと ESD」(代表:朝岡幸彦)(562 教室)

プロジェクト研究 IV 「持続可能性をめざす大都市圏における環境教育・ESD の具体化に向けて」(代表:福井智紀・佐藤真久)(563 教室)

プロジェクト研究 V 「幼児期における環境教育」(代表:岡島成行)(564 教室)

プロジェクト研究 VI 「水辺の環境教育」(代表:本庄眞)(867 教室)

【論文の書き方セミナー】8月1日(金) 18:00~20:00/55・58年館 6階 867 教室

【国際交流フォーラム】8月3日(日) 12:00~15:00/55・58年館 7階 571 教室

本学会は、韓国環境教育学会、台湾環境教育学会、北米環境教育学会、オーストラリア環境教育学会の各学会との交流協定を結んでいます。そこで今大会では「国際交流フォーラム」を設け、各学会の最近の取り組みを紹介し、各学会代表者と昼食を持ち寄り、お茶やお菓子を食べながら交流を行います。(簡単な逐次通訳あり)

### 【資料配布スペース・書籍販売コーナー】

本大会では環境教育メッセ(環境教育見本市)は実施いたしません。大会期間中、会員諸氏が持ち込まれた印刷物やチラシ等の配布を目的としたテーブルを、55・58年館6階のフロアに設置いたします。参加者への配布を目的として、環境教育関連資料等を持ち込まれた方は、こちらのテーブルをご利用ください。なお残部につきましては、8月3日の15:00までに撤収を完了してください。この時刻を過ぎて残っている資料につきましては、実行委員会にて処分いたします。なお、事前送付の受付や保管、郵送等による返却は一切行いませんので、ご了承ください。また会員サービスの一環として、出版社等による販売コーナーも設置しております。どうぞご利用ください。

## <一般公開イベント>

【大会企画/公開シンポジウム】8月2日(土) 15:15~17:15/55・58年館 835 教室

大会2日目に大会企画として公開シンポジウム「ESDの10年と環境教育の未来」を開催します。国連ESDの10年(DES)を通じて、ESDはどのように展開されてきたのか、またESDは環境教育にどのような影響を与えたのか。さらにポストDESにおけるESDと環境教育の展望について、DESの推進にかかわってきた本学会関係者と政府関係者(文部科学省、環境省)による率直な討論を通じて、検討します。その際にESDと環境教育における「教育」機能の深まりにも注目していきます。

コーディネーター: 笹川孝一(法政大学)

パネリスト: 木曾功(元文部科学省国際統括官・前ユネスコ大使)・小林正明(環境省総合環境政策局長)・棚橋乾(全国小中学校環境教育研究会会長)・阿部治(立教大学・日本環境教育学会長)

コメンテーター: 朝岡幸彦(東京農工大学)・田中治彦(上智大学)

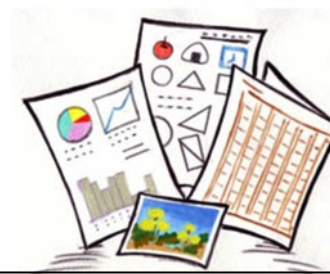


# 論文投稿をめざす若手研究者のための 論文の書き方セミナー

## (若手学会員の集い)

日本環境教育学会編集委員会は、今年も「論文の書き方セミナー」を第25回大会にあわせて開催することにしました。今回のセミナーは、編集委員会と大学院生等の会員で構成する「若手学会員の集い世話役会」の共催の形で行います。最近、学会誌に掲載された論文等の著者を話題提供者として「若手学会員の集い世話役会」から推薦してもらい、その方々に話題提供をお願いしました。セミナーでは、編集委員長による編集方針の説明を含めて4名の方から話題提供いただきます。「若手学会員の集い世話役会」からは、とくに質的研究に関わる論文の書き方についての要望が出されていたので、後半はこうした点を中心に会員間で意見交換したいと思います。

日時：2014年8月1日（金）18時～20時  
場所：法政大学 55・58年館867教室



### 話題提供

荻原 彰 氏（日本環境教育学会編集委員長・三重大学）  
「環境教育」の編集方針について

岩佐 礼子 氏（東京大学大学院 新領域創成科学研究科）  
質的資料の収集と分析の方法について考える

野田 恵 氏（東京農工大学）  
質的研究・理論研究のまとめ方ーこれまでの経験をもとに

木俣 美樹男 氏（元東京学芸大学）  
若手研究者へのメッセージー動き、考え、読み、書く

**主催：日本環境教育学会編集委員会・若手学会員の集い世話役会**

問い合わせ：日本環境教育学会編集委員会（セミナー担当：比屋根哲）まで。

電話：019(621)6245 E-mail：[hijane@wate-u.ac.jp](mailto:hijane@wate-u.ac.jp)

## ポスター発表

- P 01 ○高橋正昭・武本行正：青空カードによる環境学習
- P 02 ○峯野一翔（日本大学理工学部土木工学科）・○西川遥（株式会社NIPPO）・岐美宗（広島商船高等専門学校流通情報工学科）：社会体験型による環境教育プログラムの実践と教材開発
- P 03 ○羽馬千恵（伊達市噴火湾文化研究所）：地域の身近な河川における野鳥を題材とした環境教育の実践
- P 04 ○田中卓也（共栄大学）：大学・教育委員会との連携としての里山体験活動実践の可能性とその意義
- P 05 ○佐藤裕司（兵庫県立大学 自然・環境科学研究所）・岸本清明（甲南女子大学・非常勤講師）・神田英昭（加東市立米田小学校）：自然史リテラシーの涵養を指向する小学校6年生理科「大地のつくり」の試みー恐竜化石の活用と地質フィールドワークの効果ー
- P 06 ○和田貴弘（北海道大学大学院文学研究科）・箱崎陽一（元北海道札幌南高等学校）：野生生物を教材とした環境教育実践の保全生態学的検討：学校林におけるオオムラサキの復元活動
- P 07 ○清水大貴（東海大学大学院 人間環境学研究科 人間環境学専攻 2年）：都市部におけるTDM施策に関する提案
- P 08 ○篠宮英介（東海大学大学院人間環境学研究科）・松本晃一（NPO法人東海大学地域環境ネットワーク）・藤野裕弘（東海大学大学院人間環境学研究科）：地域の生活環境を踏まえた総合的流域環境評価の検討～金目川水系を例として～
- P 09 ○渡部美佳（東京家政大学子ども学部子ども支援学科）・荒井圭（東京家政大学子ども学部子ども支援学科）、大澤力（東京家政大学子ども学部子ども支援学科）：東京家政大学狭山キャンパスの環境調査1ー樹木からみた環境ー
- P 10 ○高雅（東海大学大学院人間環境学科人間環境学専攻）：中日自動車産業の比較に基づく中国環境政策への提言
- P 11 ○李智（東海大学大学院人間環境学科人間環境学専攻）：中国河北省におけるトヨタの砂漠化防止プロジェクトと活動がもたらした影響に関する研究ー住民の経済的自立と環境保全に着目してー
- P 12 ○妹尾理子（香川大学）・石川恭広（香川県教育委員会）・池田達治（香川県教育委員会）・林雄二（三豊市立仁尾小学校）・岡本香（高松市立勝賀中学校）・植田幸子（英明高等学校）・川田昭子（香川県環境森林部環境政策課）・新池美早子（香川県環境森林部環境政策課）：“エネルギー”に焦点を当てた地域環境学習教材の開発「さぬきっ子 環境スタディ～エネルギー編～」
- P 13 ○渡部裕司・高橋夕折・長沢恵・大江真央・江田清奈・有村友秀・龍柚香子・加藤麦穂・高橋周作・武田華生・笹栗麻優子・佐藤玲奈：環境教育リーダー養成講座の体験活動を通じた大学生の学びと課題
- P 14 ○柿本秀（福岡県環境教育学会）：「災害の特殊式」発表後の取り組み(The measure a “ Special type of disaster ” announcement)
- P 15 ○小河原孝生・古井亮太・河野慶子（特定非営利活動法人生態教育センター）：生物多様性保全のための市民参加型生きもの調査
- P 16 ○高桑進（NPO 法人木づかい倶楽部代表理事）松村賢治（大阪南太平洋協会理事長）：新炭革命：環境教育プログラムとしての炭焼き活動のすすめ
- P 17 ○今村光章（岐阜大学）・梶浦恭子（岐阜女子大学）：幼児が「森のようちえん」で枝を拾う意味
- P 18 ○伊東絵里子（早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科 修士1年）：自然学校における女子大生の集客の考察
- P 19 ○米山奈穂（高崎経済大学地域政策学部）・馬場龍樹（高崎経済大学大学院地域政策研究科）・飯島明宏（高崎経済大学地域政策学部）：学校における環境教育の現状～アンケート調査に基づくー考察～

- P 20 ○宮下博樹・牧野弘堯・室田憲一・藤田成吉（東海大学人間環境学研究科人間環境学専攻）：有機農業振興のための5-アミノレブリン酸の活用
- P 21 ○山崎拓也（東海大学大学院 人間環境学研究科）・藤野 裕弘（東海大学大学院 人間環境学研究科）：実践を伴う地域総合学習プログラムの検討～平塚市における河川環境教育を中心に～
- P 22 ○三島孔明（千葉大学園芸学研究科）・西銘宜成（沖縄県）：自然体験活動に関する事故の防止を目的とした教員用教材の試作
- P 23 ○山田将平（筑波大学 人文・化学群 比較文化学類）・野倉優紀（筑波大学 人文・化学群 比較文化学類）・横井理子（慶応義塾大学院 システムデザイン・マネジメント研究科）・浜泰一（山梨県富士化学研究所）：身近な環境問題を解決するためのワークショップ型授業～ 奈良県明日香小学校における実践～
- P 24 ○川北裕之（千葉県立国府台高等学校）：高校現場における環境教育の新たな可能性
- P 25 ○村松陸雄（武蔵野大学 環境学部）：時間的展望と環境意識や行動との関係についての研究
- P 26 ○竹内孝曜（一般社団法人未踏科学技術協会）・稲葉敦（工学院大学）：LCA 学習ツールの開発及び教育効果の検証
- P 27 ○村山史世（麻布大学環境教育研究会）・小宮菜摘（武蔵野美術大学）：教育プログラムの ESD 化に関する一手法
- P 28 ○和木美玲（東京海洋大学大学院）・佐々木剛（東京海洋大学）・大島弥生（東京海洋大学）：中学生に対する水圏環境教育における大学生のファシリテーションの諸相
- P 29 ○小林誠・岩西哲（十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ）：博物館を核とした子育て支援としての環境教育の実践 - 「ブナの森のようちえん」の開催から-
- P 30 ○中村和彦・藤原章雄・小林博樹・斎藤馨（東京大学）：素材となる画像音声アーカイブを伴った森林映像教材の公開
- P 31 ○加藤美由紀（日本女子大学）：小学校における保全教育の実践
- P 32 ○井原妙・原田沙樹・松本貴志（一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット）：テーマ・学び・対象変幻自在の地球温暖化対策学習プログラム「○○（まるまる）ボックス」の開発
- P 33 ○白石綾（東海大学大学院人間環境学研究科）・河野裕美（東海大学沖縄地域研究センター）・藤野裕弘（東海大学大学院人間環境学研究科）：西表島における地域資源利用の現状
- P 34 ○山家俊晃（東海大学大学院人間環境学研究科）・勝田悟（東海大学教養学部人間環境学部人間環境学科社会環境課程）：再生可能エネルギーを用いた持続可能な地域づくりに関する研究
- P 35 ○上月康則・前田真里・平井研・中西敬・山中亮一・池田亮太郎・吉政静夫（徳島大学・NPO 人と自然とまちづくりと・NPO 高砂キッズ・スペース・播磨マリンクル）：海水池公園での学童児童との環境改善の取り組み
- P 36 ○徐萌（東海大学大学院）・岩本泰（東海大学）：中国北京市「科学」科と日本「理」科の教育内容と方法の比較・検討
- P 37 ○小西伴尚（梅村学園三重中学校・高等学校）・秦浩之（梅村学園三重中学校・高等学校）・川田博基（梅村学園三重中学校・高等学校）・平賀伸夫（三重大学教育学部）・荻原彰（三重大学教育学部）：自分の地域を自分で調べる取り組み～三重中学校の海の調査～
- P 38 ○青山真弓・杉浦正吾・白井信雄・田中充：気候変動適応策学習プログラムを地域で取り組むための手順紹介
- P 39 ○岡崎和也（茨城県霞ヶ浦環境科学センター環境活動推進課）：茨城県霞ヶ浦環境科学センターにおける環境学習の紹介
- P 40 ○古瀬浩史（帝京科学大学/自然教育研究センター）：自然公園等における包括的なインタープリテーション計画の必要性と事例
- P 41 ○JIAN, Zi Ling and LIN, Su Hwa: The environmental literacy indicators of general public, in Taiwan

## English Session on August 3<sup>rd</sup>, 2014

9 : 00 ~ 9 : 55

G	(China /Taiwan/Policy)	ZHANG, Ling: Education for Sustainable Development (ESD) in China - Focus on The Guiding Philosophy	EFIRD, Rob: Enhancing China's Environmental Education: Identifying Obstacles, Exploring Opportunities	WANG, Shun-Mei: The analysis of environmental education policy with UNESCO's ESD lens	Chair NINOMIYA-LIM, Sachi
H	(Community/Approach)	LIU, Shih-Tsen: The quality development of environmental education centers after the enforcement of Environmental Education Act in Taiwan	SAKURAI, Ryo: Factors affecting residents' willingness to participate in green restoration activities	TSUJI, Rika: An Ethics-Based Approach to Environmental Education	Chair FURIHATA, Shinichi

10 : 00 ~ 10 : 55

G	(Impact/Indicators)	CHEN, Ai-Chin: The environmental literacy indicators of Senior high school students levels, in Taiwan	KAWAHITO, Kazumi: Did the changes of the course study affect the teachers' awareness of the environmental education?	Steven R. McGreevy: Comparing the impact of environmental education on worldview, lifestyle choices, and behavior: A survey of graduates from the "Zoo School"	Chair KOBORI, Hiromi
H	(Pre/Primary School)	SENDA, Ko: A consideration about relations to infant's environments on kindergarten and nursery school grounds designing (No.3)	YAGASAKI, Tomoki: Roles and effects of hands-on learning practices on wild plant species in the Satoyama experience education program for elementary school children	ALIAH PHANG, Fatin: Eco-Life Challenge Promotes Low Carbon Awareness among Primary School Students in Malaysia	Chair OSHIMA, Junko

11 : 00 ~ 11 : 55

G	(Eco-health/ Laos)		WATANABE, Ryuichi: Development of ecohealth education curriculum in Teacher Training College toward the realizing ESD, Lao PDR - lesson learn from demonstration lesson about Water and health -	TOMOKAWA, Sachi: Progression reports of Development of ecohealth education curriculum in Teacher Training College toward the realizing ESD, Lao PDR – Main achievement and future challenges -	Chair SAKURAI, Ryo
H	(University/ Field experience)	PARK, Tae Yoon: A Study for Korea-Vietnam Environment Education Cooperation - Through curriculum development of Hanoi University of Natural Resources and Environment	NINOMIYA-LIM, Sachi: University Education for Resilience and Sustainability – Field-experience and “Unlearning”	FURIHATA, Shinichi: Sites--Collecting Living Stories in the Northern Coast of Miyagi	Chair NAGAHAMA, Kazuyo

<研究発表>

※登壇者（筆頭者）として登録された1名のみ、氏名を掲載しております。

【口頭発表】 8月2日（土） 9：00～9：55

		9：00～	9：15～	9：30～	9：45～
A会場	ESD	2A01 杉浦正吾 企業のCSR活動を生かしたESDの先進事例～その事業概要とプログラム構成～	2A02 元木理寿 「低い島」における水資源を活用した環境教育の展開～沖永良部島におけるESD実践を通じて～	2A03 前園泰徳 学校教育においてESDを“特別”から“日常”にするには？～福井県勝山市における実践から～	総合討論
B会場	国際研究	2B01 須田真依子 アジア地域における環境教育プログラムの普及に関するコーディネーターの機能の分析～イスカンダル・マレーシアにおける事業事例より～	2B02 小倉亜紗美 マレーシア・ボルネオ島における地域住民参加による熱帯雨林再生活動を通じたESDの試み	2B03 鈴木和信 マレーシアサバ州の環境教育実践活動報告	総合討論
C会場	野生動物	2C01 太田貴大 政策系学部生を対象とした狩猟に関する室内単発授業の短期的効果：同年代の取組み『狩り部』の紹介を中心として	2C02 本多孝 環境教育指導者に求められる身近な自然の大切さの普及根拠をシカの食層解析から考察する	2C03 西澤浩美 鹿肉×地球温暖化防止？	総合討論
D会場	被災地		2D02 石山雄貴 被災地における環境教育に与える東日本大震災の影響に関する研究	2D03 李曉曄 被災地における自然学校の可能性と課題－都市農村交流による新たな学びの拠点－	総合討論
E会場	幼児・初等教育	2E01 石井誠治 水環境学会 WEE21 ワークショップ「小学校の教科書を調べる」－(2)水や水環境に関する具体的記述を議論する－	2E02 小川かほる 水環境学会 WEE21 ワークショップ「小学校の教科書を調べる」－(1)取組の経緯と開催の目的－	2E03 樋口利彦 小学校の環境教育を支援する市民や大学生の学びの分析	総合討論
F会場	理論・思想	2F01 小野瀬剛志 環境教育における「贈与の教育学」の批判的継承	2F02 小川潔 自然保護教育における野生と環境倫理	2F03 森谷昭一 環境課題の体系的分類のための座標	総合討論

G 会場	ものづくり	2G01 西尾チヅル モノづくり企業発環境教育コンテンツの課題：消費者の環境配慮行動の視点から	2G02 伊藤一夫 モノ作り企業発、身の回り製品を題材とした環境教育プログラムの実践と模索	2G03 吉川大貴 モノづくり企業発、身近なものを題材にした環境プログラムと学校との連携の可能性について	総合討論
---------	-------	---	---	--	------

【口頭発表】 8月2日(土) 10:00~10:55

		10:00~	10:15~	10:30~	10:45~
A 会場	ESD	2A04 降旗信一 ESD・環境教育としての教職教育における「被災地学習」の可能性~宮城県北部沿岸地域での聞き取り体験より~	2A05 田開寛太郎 「地域づくり教育としてのESD」の概念的枠組みの検討	2A06 莫日根 災害被災地におけるESD研究の可能性 - T.Tidball の Greening in the Red Zone1 を手掛かりに	総合討論
B 会場	国際研究	2B04 佐藤秀樹 国際環境協力活動を目指すNGO職員等を対象とした人材育成プログラム~インドネシアにおける海外派遣研修事業の実践報告	2B05 布施達治 オーストラリアにおける学校と学外環境教育資源との連携に関する特質-NSW州環境教育センターの活用を中心として-	2B06 飯塚宜子 北米先住民と自然との関わりに学ぶ環境教育実践	総合討論
C 会場	野生動物		2C05 黄衛鋒 コウノトリ野生復帰事業における持続可能な地域づくりとしての環境教育の成果と課題	2C06 小泉伸夫 白鳥飛来地における給餌自粛の環境教育的意義	総合討論
D 会場	被災地	2D04 近藤祐一郎 子ども達の未来志向を支援する復興絵馬ワークショップ~仙台市立中野小学校5,6年生を対象として~	2D05 秦範子 持続可能な地域づくりにおける住民参加のプロセスに関する考察~東日本大震災後の復興過程における農山漁村を事例として~	2D06 井村礼恵 地域に点在するものをつなぐ視点の学習~短大における被災地支援活動の事例から~	総合討論
E 会場	幼児・初等教育	2E04 池田浩一 札幌市内の小中学校における「水の総合学習会」の実践報告	2E05 宮本直樹 河川の水環境学習の実践と児童の理解-宮戸川を事例にして-	2E06 猪俣寛 ラムサール条約登録が与えた小学生の意識変化	総合討論
F 会場	理論・思想	2F04 渡辺りわ 環境教育における「経験」概念の一考察-デューイの自然主義的経験論を手がかりに-	2F05 佐野和美 日本の環境教育・リスク教育の現状と今後の在り方とは	2F06 加賀芳恵 「社会-生態システム論」から見た学校と地域の連携	総合討論

G 会場	ものづくり	2G04 海老原誠治 モノ作り企業発，日常生活環境への身近な製品を用いたプログラムと，受容性の比較	2G05 高岡由紀子 イベントで配布されるノベルティの環境負荷に関する意識の調査	2G06 北村祐介 LCTにもとづいたライフスタイルの変革を目的とした，ものづくり企業を中心とする学校との協働の模索	総合討論
---------	-------	---	--	--	------

【口頭発表】 8月2日（土） 11：00～11：55

		11：00～	11：15～	11：30～	11：45～
A 会場	ESD	2A07 坪松美紗 学校と地域が連携したESDの推進に向けた地域コーディネーターの可能性	2A08 森高一 都市型環境施設の運営とESD展開の可能性	2A09 萩原豪 かがしま茶を活用したESD実践と地域資源の再考	総合討論
B 会場	国際研究	2B07 馬志遠 中国の小学校における環境教育効果－山西省長治市の緑色学校での調査事例－	2B08 趙冉 日中の小学校の環境教育の実態についての比較分析	2B09 朴明権 遠隔教育を導入した日中小学校における河川環境学習の比較研究	総合討論
C 会場	野生動物	2C07 中山孝志 自然体験プログラム参加者における意識変化について～単一野生動物をテーマにした「やまね学校」を通じて～	2C08 杉浦公昭 入間川でのサケ放流による大衆の環境教育実践（総括）	2C09 溝田浩二 ニホンミツバチ伝統養蜂を題材とした環境教育の実践	総合討論
D 会場	原子力	2D07 後藤忍 福島県における原子力および放射線教育の実態と課題～中学校理科教員へのアンケートから～	2D08 鈴木隆弘 原発に関する事業の比較・検討－『原発事故のはなし』を中心に－	2D09 鈴木一正 放射能からの保護プログラム－2013年度の実施状況－	総合討論
E 会場	幼児・初等教育	2E07 真名垣聡 首都圏女子中学校におけるビオトープを用いた環境教育の有効性の検証	2E08 大関健道 地域の教育資源を生かした環境学習が中学生の意識に及ぼす影響～理科に対する学習意欲や授業態度及び理科に関するキャリア志向を中心に～	2E09 林誠司 アサリとアラムシロを用いた干潟の浄化機能を実感させる学童保育プログラム「うみをきれいにするかいたち」	総合討論
F 会場	公園利用	2F07 藤岡達也 日本型環境教育構築の視点からみたジオパーク活用	2F08 君島俊克 発展途上における自然公園－先住民と自然保護政策－	2F09 柄晃裕 日本流ロングトレイルの誕生と環境教育の可能性	総合討論

G 会場	地域 コミュニ ニティ	2G07 齊藤雅洋 地域に 根差す教育と学習ネッ トワーク	2G08 新堀春輔 環境学 習・環境保全活動の拠点 施設における環境ボラン ティアと地域環境人材育 成の成果と課題	2G09 吉田美沙 地域に ねざす環境教育カフェ の可能性	総合討論
---------	-------------------	-------------------------------------	---	-------------------------------------	------

【口頭発表】 8月2日(土) 12:45~13:40

		12:45~	13:00~	13:15~	13:30~
A 会場	ESD	2A10 九里徳泰 日本の 高等教育機関における ESDの実態調査と展望	2A11 櫛田敏宏 高等教 育におけるESDの視点の 導入	2A12 酒井佑輔 環境教 育・ESDにおいて他者を 問うことの意義とその 可能性に関する基礎的 考察	総合討論
B 会場	幼児・ 初等教育	2B10 仙田考 園庭設計 における幼児の環境と の関わりについての一 考察(その3)	2B11 白坂正太 子どもの 日常につながる遊びを 目指したアクションリサー チ:福岡市「わいわい広場」 を事例として	2B12 中村俊哉 幼稚園 の園外保育における環 境教育~隣接した公園を 使用した幼稚園の実践から ~	総合討論
C 会場	生物多 様性	2C10 馬場龍樹 テキス トマイニングによる生 物多様性教育プログラ ムの学習効果検証	2C11 谷村載美 都市域 において生物多様性保 全の観点から環境保全 行動を促進する環境教 育の試み	2C12 東照晃 生物多 様性の学習に関するフ ィールドワークの効果 の検証	総合討論
D 会場	文学・ 芸術	2D10 瀧田佳苗 自然環 境と漢字を関連させた 短時間映像教材の作成 と実施に関する研究	2D11 金子俊明 環境史 をアニメーションで表 現する学習の実践	2D12 小島望 フィール ドサウンドマップと文 学サウンドマップの比 較とその特性	総合討論
E 会場	高等学 校教育	2E10 小境玲子 持続 可能な開発のための参 加型環境教育	2E11 荘司孝志 教科「環 境」の授業について	2E12 中口毅博 高校の 総合学習における問題 解決型プログラムの効 果	総合討論
F 会場	評価方 法	2F10 藤咲健人 実践初 心者のための環境教育 プログラム開発手法の 検討	2F11 鈴木睦未 生体指 標を用いたストレス測 定による学習環境評価 方法の検討	2F12 齊藤由倫 大気環 境に関する新しい体験 型学習の開発と評価ー 地方環境研究所の活用ー	総合討論



G 会場	市民 参画	2G10 桜井良 地域住民の緑化活動への参加意欲に影響を与える要因の分析	2G11 醍醐ふみ 都市内緑地の公共性に関する一考察：環境教育の「場」としての関さんの森を事例に	2G12 甲野毅 市民による緑地の合意形成過程に関する研究	総合討論
---------	----------	--------------------------------------	--	-------------------------------	------

【口頭発表】 8月2日（土） 13：45～14：40

		13：45～	14：00～	14：15～	14：40～
A 会場	ESD	2A13 牧宏「これからのエネルギーを考えよう」の授業実施計画について	2A14 早川有香 持続可能な開発目標をめぐる国際論議における教育の位置づけに関する考察	2A15 太刀川みなみ 多摩循環型エネルギー協会「次世代リーダー育成プログラム」を通じた地域におけるエネルギー環境教育の実践と課題	総合討論
B 会場	幼児・初等教育	2B13 井上真理子 森林体験を伴う教育活動の実施体制と内容－多摩市立連光寺小学校5年生の学習活動を事例に－	2B14 大石康彦 森林体験を伴う環境教育活動の評価方法の試み－多摩市立連光寺小学校5年生の学習活動を事例に集団と個に注目して－	2B15 小玉敏也 学校での環境教育の評価方法の試み－多摩市立連光寺小学校5年生の作品分析を通して－	2B16 野田恵 なぜその教師たちは熱心に環境教育・ESDに取り組むことができるのか－多摩市立連光寺小学校教師の「語り」を手がかりに－
C 会場	生物多様性	2C13 長島康雄 小中学校理科における生物多様性教育の位置付け	2C14 根本真弓 一般利用者に生物多様性を伝えるためのティーチャーズガイドの考察～ビクターセンターでの取り組み～	2C15 林浩二 博物館はHeritage(遺産)を扱う機関である	総合討論
D 会場	公害教育	2D13 楊珊瑚 公害資料館作りと教師の役割	2D14 岩松真紀 公害教育から健康学習への発展と課題	2D15 丹野春香 「住民運動と教育運動」再考 水俣公害教育運動史研究に向けて	総合討論
E 会場	高等・大学教育	2E13 竹澤伸一 環境分野における社会貢献を支える教育のあり方	2E14 ニノ宮リムさち レジリアンスと持続可能性につながる大学教育とは～現場体験と「アンラーン」の視点から～	2E15 本田裕子 環境学を専攻する大学生を対象としたグループ討論学習	総合討論

F 会場	評価方法	2F13 笠井利浩 ライフサイクル思考に基づく環境教育プログラムの実践と評価	2F14 新田和宏 環境教育と評価	2F15 森朋子 短期 ESD プログラムを事例とした教育プログラム効果の評価～環境リテラシーの視点から～	総合討論
G 会場	まちづくり	2G13 小島英子 成人を対象としたごみ問題の意識啓発施策の提案：ソーシャル・マーケティングによるライフステージ別アプローチ	2G14 前田善弘 公共交通を活かした環境教育－近鉄内部・八王子線沿線の取り組みから－	2G15 高橋敬子 西池袋における持続可能な地域づくりへの取り組み－都市型ネットワークの形成による新たなまちづくり－	総合討論

【口頭発表】 8月3日(日) 9:00～9:55

		9:00～	9:15～	9:30～	9:45～
A 会場	幼児教育	3A01 梶浦恭子 「森のようちえん」で磨かれる感性(2)	3A02 丸谷聡子 幼児教育における自然体験の意義と効果に関する研究～幼稚園教諭による環境教育実践を通じて～	3A03 森下英美子 「森のムッレ教室」と「森のようちえん」の共通点・相違点	総合討論
B 会場	温暖化		3B02 川原博満 都市型地球温暖化対策学習プログラムの10年～地域に向けたソフト力～	3B03 藤野純一 地域における温暖化の理解と取り組みの促進を狙ったツールの利用・開発状況に関する調査結果と今後の展開に関する分析	総合討論
C 会場	農林業	3C01 長濱和代 吉野林業の歴史を伝える：川上村における教育プログラムの実践	3C02 佐藤年緒 災害復興における樹木が果たす役割	3C03 竹内和俊 スギ野地板の教材化－入手しやすい木材を利用する環境学習－	総合討論
D 会場	教育方法・教材開発	3D01 三田村緒佐武 水域の電気伝導度値から主要イオン成分濃度の見積もりと水環境学習への応用	3D02 蒔田明史 鳥海山麓桑ノ木台湿原の保全管理に関する検討過程2～施設整備から環境教育プログラム作成まで～	3D03 五明美智男 環境活動・調査時の行動特性と安全性分析	総合討論
E 会場	市民参画	3E01 後藤瑛 自然体験活動がシチズンシップ形成に及ぼす影響－徳島県吉野川「川の学校」を事例として－	3E02 福井智紀 科学技術の利用に関する合意形成過程の分析：ナノテクノロジーに焦点を当てた集団討論を事例として	3E03 花田真理子 専門知による市民力向上の試み～大東環境みどり会の活動を例として～	総合討論

F 会場	指導者	3F01 寺木秀一 初等教員養成課程における環境教育の実践	3F02 遠藤修作 地域の環境教育に果たす京都・環境教育ミーティングの役割～10年間の成果と課題～	3F03 植田善太郎 特別支援教育と環境教育の交わり	総合討論
G	China /Taiwan/Policy	3G01 ZHANG, Ling: Education for Sustainable Development (ESD) in China - Focus on The Guiding Philosophy	3G02 EFIRD, Rob: Enhancing China's Environmental Education: Identifying Obstacles, Exploring Opportunities	3G03 WANG, Shun-Mei: The analysis of ROC's (Taiwan) national policy with UNESCO's ESD lens	Discussion
H	Community/Approach	3H01 LIU, Shih-Tsen: Construction and Trial Evaluation of the Evaluation Indicators for Environmental Education Facilities and Venues	3H02 SAKURAI, Ryo: Factors affecting residents' willingness to participate in green restoration activities	3H03 TSUJI, Rika: An Ethics-Based Approach to Environmental Education	Discussion

【口頭発表】 8月3日(日) 10:00～10:55

		10:00～	10:15～	10:30～	10:45～
A 会場	幼児教育		3A05 森野光太郎 日本で初めてとなる昆虫ホテルを教材として用いた子どもたちとの共同実践	3A06 山口雪子 環境教育におけるユニバーサルデザインについての研究	総合討論
B 会場	温暖化		3B05 白井信雄 気候変動の地域への影響と緩和・適応に関する学習プログラムの開発～長野県飯田市での検討	3B06 國政歩美 JICA 火力発電技術研修参加報告－研修の環境教育的効果に着目して－	総合討論
C 会場	農林業	3C04 田中浩之 川名の里づくり協力隊－浜松市中山間地域まちづくり－	3C05 立花禎唯 農業文化から見た農業学習－水文化教育の構想と実践(その13)－	3C06 天野雅夫 共有財としての森林の保護とその活用について～commons論の視点から～	総合討論
D 会場	教育方法・教材開発	3D04 浜泰一 環境問題に対する道徳的価値観尺度簡易版の作成	3D05 石井克佳 環境学習におけるICTの活用による学習支援の試み～iPadを利用した環境学習の実践～	3D06 太田絵里 学部専門科目「環境英語」に対する関心に関する研究	総合討論
E 会場	大学教育	3E04 澤井計宏 環境教育におけるeラーニングの活用と展望－サイバー大学における事例を元に－	3E05 岩本泰 大学と地域が連携したスタディ・ツアーの検討～北海道栗山町を事例として～	3E06 畑田彩 地域の環境資源を活用した授業運営－大講義で「環境を観せる」授業は可能か?Part2－	総合討論

F 会場	指導者	3F04 関智子 自然体験活動における全体指導者の現状と課題	3F05 神村佑 環境教育の指導者養成プログラムに求められる要素の検討～他者の環境行動を学ぶ視点から	3F06 高橋正弘 大学生に向けた被災地でのフィールドワーク指導について	総合討論
G	Impact/Indicators	3G04 CHEN, Ai-Chin: The environmental literacy indicators of Senior high school students levels, in Taiwan	3G05 KAWAHITO, Kazumi: Did the changes of the course study affect the teachers' awareness of the environmental education? -Through comparing elementary school science textbooks-	3G06 MCGREEVY, Steven R.: Comparing the impact of environmental education on worldview, lifestyle choices, and behavior: A survey of graduates from the "Zoo School"	Discussion
H	Pre/Primary School	3H04 SENDA, Ko: A consideration about relations to infant's environments on kindergarten and nursery school grounds designing (No.3)	3H05 YAGASAKI, Tomoki: Roles and effects of hands-on learning practices on wild plant species in the Satoyama experience education program for elementary school children	3H06 ALIAH PHANG, Fatin : Iskandar Malaysia Eco-Life Challenge Promotes Low Carbon Awareness among Primary School Students	Discussion

【口頭発表】 8月3日(日) 11:00～11:55

		11:00～	11:15～	11:30～	11:45～
A 会場	幼児教育		3A08 増田直広 北杜市幼児教育プロデュース事業における実践と考察その2	3A09 本庄真 「自分とのつながり」通して考えられる人をめざして(2)ー児童による観光ボランティアガイドの活動を通じてー	総合討論
B 会場	食育・施設	2C05 大島順子 沖縄やんばるのワイルドライフ・ツーリズムの構築に向けた取り組みーバード・ウォッチングにおける観察指針づくりー	3B08 渋谷晃太郎 小岩井農場における環境教育の現状と課題	3B09 原子栄一郎 信州共働学舎で、教育を考え直し、その向きを変えろという現代環境教育の世界基準課題を考える	総合討論
C 会場	農林業	3C07 明英 農村の地域再生に向けた長期災害教育ボランティアの主体形成	3C08 安部尚子 「田んぼの学校」の授業実践 Part3	3C09 小栗有子 屋久島・環境教育20年の検証	総合討論
D 会場	教育方法・教材開発	3D07 張素榮 ESD 教具の開発に関する研究	3D08 宮本康司 北区環境大学事業における「環境学習教材提供支援」の効果	3D09 福田直 新しい学問領域としての土壌教材	総合討論

E 会場	実践 研究	3E07 飯尾美行 工業高 校における ISO14001 内部監査員養成－“もの づくり”と「環境倫理」－	3E08 坂井宏光 大学間 連携によるビオトープ活 動と環境教育	3E09 中村秀次 2R (リ デュース、リユース) 環境教育の実践	総合討論
F 会場					
G	Eco-health/ Laos		3H08 WATANABE, Ryuichi: Development of ecohealth education curriculum in Teacher Training College toward the realizing ESD, Lao PDR - lesson learn from demonstration lesson about Water and health -	3G09 TOMOKAWA, Sachi: Progression reports of Development of ecohealth education curriculum in Teacher Training College toward the realizing ESD, Lao PDR – Main achievement and future challenges -	Discussion
H	University/ Field experience	3H07 PARK, Tae Yoon: A Study for Korea-Vietnam Environment Education Cooperation	3H08 NINOMIYA-LIM, Sachi: University Education for Resilience and Sustainability – Field-experience and “Unlearning”	3H09 FURIHATA, Shinichi: Linking ESD and Teacher Training: Learning in Disaster Sites—Collecting Living Stories in the Northern Coast of Miyagi	Discussion